

ケーブル技術スタッフの機器チェック!

日々開発されるケーブルテレビ関連機器などを、実際に検証しながらチェック! 実用性に焦点をあてて報告します。

No. 141

BS再編トラポン縮減

ケーブルテレビ アーキテクト 上山裕史
今回はBS再編トラポン縮減について紹介します。

私たちケーブルテレビ局の技術者は、デジタル放送時代になり多種類のデジタル放送信号を扱うようになりました。2021年のBS右旋帯域新規事業者参入に先立ち、2020年11月29日に帯域再編作業の一工程である帯域縮減が実施されました。これに伴い多くのケーブルテレビ局の技術者は機器の再設定や作業後の映像確認をされたことと思います。

実際にデジタル復調器に表示される縮減前後のデータを紹介します。デジタル復調器の外観を写真1に示します。前面の左側LCD(液晶表示器)にBSアンテナからのBS-IF信号を受信したときのTS-IDと

使用するスロット数が表示されます。

BS9chの変更前と変更後のTS-IDとスロット数の変化を図1に示します。縮減前はTS-ID 0x4091(0xは16進表記という意味)とTS-ID 0x4092がそれぞれ15スロットを利用していました。縮減後は0x4091



写真1: デジタル復調器外観

が12スロット、0x4092が14スロットにスロット数が縮減されたのがわかります。1スロットは約1Mbpsです。MPEGのエンコード技術は進歩しているので画質に対する影響は無いとされています。CATV局側で得ることのできるBS-IF信号のデータからスロット数の変化を紹介しました。

ケーブルテレビ局は2021年BS帯域再編を経て新規参入事業者の放送を迎えることとなります。ユーザに満足していただけるサービスを考えていきたいと思えます。

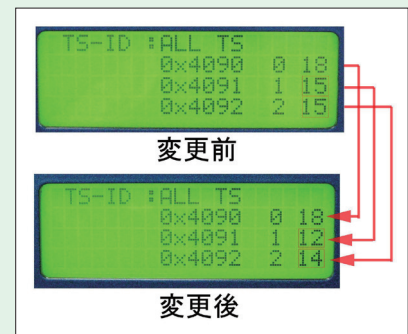


図1: BS9chのスロット